



# 南東北

- ・一般財団法人脳神経疾患研究所
- ・社会福祉法人南東北福祉事業団
- ・医療法人社団三成会
- ・医療法人社団新生会
- ・医療法人財団 健真会
- ・社会医療法人 将道会
- ・医療法人 謙昌会

第314号

院是「すべては患者さんのために」

URL:http://www.minamitohoku.or.jp  
E-mail:pr@mt.strins.or.jp

## 目指すところは「緒」

信頼なくして良き医療ならず

### 患者と医師の向き合い方

患者さんが医師に病気を診てもらう場合、どのように話せばよいか不安ですが、医師も患者さんとうまく合ってよいか戸惑うことがあるようです。3月16日(金)に総合南東北病院で開かれた3月医学健康講座で、心臓血管外科成人部門科長の緑川博文医師が「病気とどう向き合いますか?」多くの患者さんから学んだことと題して講演した内容を要約し、患者さんと医師の関わり方を考えます。



体験から学んだことなどを語る緑川医師

#### ▼最初の研究テーマ

私は県南の中島村の生まれで、実家は呉服店を営んでいました。私が7歳の時に、生後間もない妹が亡くなりました。両親があれほど泣いたのを見たことがありません。医者はいない村だったので、病院があれば、妹は助かったかもしれない。そういうこともあってか、いつか医師になって無医村で医療をしたいと思うようになりました。

安積高校を経て昭和61年に福島県立医科大学を卒業。へきち医療を目指し、大学の第一外科に入学しました。医師になって2年目が終わるころ、心臓血管外科初代教授の星野俊一先生(福島厚生会理事・3月11日逝去)に将来の専門医としての進路を問われました。「まだ決めていない」と言うと、星野先生は「心臓血管外科医はどう?」だれでもはなれないが、君なら必ずなれる」と言われました。

へきち医療が目標であった私には青天の霹靂でしたが、心臓血管外科には魅力を感じていました。その魅力は「命と正面から向き合える」「がんがない」「自分の技術がすぐに結果に出る」などです。私は父に「心臓血管外科医になれば家には帰れないかもしれない」と話すと、父は「男は請われて仕事に就けることほど、幸せなものはない」と言ってくれました。これがこの分野に進んだ理由です。

心臓血管外科医になって1年目の夏に破裂性腹部大動脈瘤で運ばれてきた患者さんがいました。腹部大動脈瘤が破裂すると50%は病院にたどりつく前に死亡、病院に運び込まれ手術しても救命率は25~50%です。そしてこの病気が何より怖いのは、破裂を予測することが困難なことでした。

この患者さんは私と一度も会話ができないまま、術後2カ月で亡くなりました。いつの日かこのような厳しい疾患を治してみたいと思うようになり、最初の研究テーマとなりました。私が30代のころに出会った89歳の肺炎患者のことをお話しします。肺炎はとて

も恐ろしい病気です。日本人の死因は1位ががん、2位は心臓の病気、3位が今は脳卒中を抜いて肺炎です。肺炎による死亡者の約95%は65歳以上です。また、肺炎は発症後に急に悪化することもあります。

#### ▼医師として大切なこと

この患者さんの場合、延命治療のような治療はしないだろうと判断してしまいました。患者の奥さんに「この年齢だと助かる可能性は低く、人工呼吸をやるにしても装置を外せない可能性(2面につづく)

#### 今月号のなかみ

- ▶ 2面 = 健康生活あんないナビ、1面つづき
- ▶ 3面 = 南東北医療クリニック北口にバス停、南東北眼科クリニックのHP充実、最近よく聞く言葉、相談課から
- ▶ 4面 = 南東北春日在宅センター開所、脳外傷友の会うつくしま10周年記念講演会
- ▶ 5面 = 総合福祉センターだより、ゴールドメディアだより、
- ▶ 「五月病」かも、がん陽子線治療実績
- ▶ 6面 = 医学健康講座の日程、がん患者家族サロン勉強会、精神科神経科開設
- ▶ 7面 = 初期臨床研修医の修了祝賀会、増子輝彦さんのコラム、3月の手術件数・救急車台数
- ▶ 8面 = 旬の健康レシピ、薬局だより、編集後記